

『丹心／まごころ』刊行記念トークイベント 小説と哲学のあいだに～近代日本批評の定位～ イベント実施レポート

実施日時などの概要は告知ポスター(別紙)をご参照ください

参加人数： 会場55名 オンライン配信なし
参加者内訳： 東大学部生45%（うち学部1年生が51%）、
東大院生20%、東大教職員11%、上記以外24%
イベントを 東大生協メールマガジン42%、人からの紹介17%、
知った方法： 登壇者のXポスト16%、駒場書籍部のXポスト13%、ほか
※各%は申込時の情報をもとに算出しています。

参加者の感想（参加者アンケートの回答より抜粋。趣旨を変えない範囲で一部の字句を修正しています）

- 学部1年生には難解な内容でしたが、文学と経済のあたりから反資本主義を想起して、帰り道には友人とエリート意識の話題にまで、どういうわけか発展しました。期末試験が終わったらゆっくりおさらいをしたいです！
- 浪漫派と魯迅の対比や、文学と政治の関係など、想像以上に横断的な内容だった。知らない作品からの引用が多かったが、そのぶん読書欲を持つことができて楽しかった。
- 仁科さんの作品についての話はほとんどされなかったのではないかな。王先生はすばらしい研究者だが、今回の対談相手は仁科さんの作品を読んでいる方から選ぶべきであったように思う。
- 言葉というのは、あらゆる状態や存在を普遍化してしまうという王先生の言葉が印象深かった。

運営スタッフより 駒場書籍部 足立

- 期末試験期間中の実施にも関わらず、多くの学部生（しかも1年生多数）の申込がありました。企画段階で、仁科さんは文学批評の面白さ・奥深さを学生に知ってほしいと仰っており、その想いは参加者に届いたのではないのでしょうか。
- 今回は刊行から間もないこともあり、仁科さん自身の作品に関する話はごく僅かでした。本イベントの内容を踏まえて『丹心／まごころ』を私たちが（王先生も）読み込み、咀嚼できた頃に改めてお話を聞くことができれば、より味わい深く楽しめることと思います。
- 駒場書籍部は引き続き仁科さんを応援するとともに、参加者の皆様をより豊かな文学批評の世界にお連れするイベントを企画してまいります。

